

重要取組シート

取組項目		百舌鳥古墳群の保全・継承の取組
現状・課題		<ul style="list-style-type: none"> 令和元年7月に世界遺産登録された百舌鳥古墳群を次世代に継承するため、古墳の適切な保安全管理を行い、また古墳サミット開催や百舌鳥古墳群ビジターセンターの設置・運営により、世界遺産百舌鳥・古市古墳群の価値や魅力を発信している。 令和2年度以降新型コロナウイルス感染症の影響により、来訪者の減少やイベントの縮小・中止が発生しており、社会情勢に柔軟に対応した手法による情報発信が必要である。 各古墳では、倒木や自然災害等による損傷が発生するおそれがあり、これを防ぐための整備や濠水環境の改善などを進め、適切な保全活動を計画的に実施する必要がある。
取組の内容		<ul style="list-style-type: none"> 大阪府内、関西圏内と順次規模を拡大してきた古墳サミットを、全国に範囲を広げて開催し、広く「世界遺産百舌鳥・古市古墳群」の情報発信を行い、また全国の古墳の代表として古墳の魅力を伝える。 市民考古学講座を再構築し、古墳群の保全意識のさらなる醸成を図る。 御廟表塚古墳の整備を順次実施（令和5年度完成予定）しながら、他の古墳等についても適切に維持管理を実施する。 文化財保護法に基づく古墳を適切に保存・活用する基本方針である「史跡百舌鳥古墳群保存活用計画」を策定する。 上空から百舌鳥古墳群や堺の街並みを眺望できるガス気球を大仙公園内に試行的に設置・運行する。
スケジュール	前期 (～7月)	□世界遺産構成資産のモニタリング、各古墳の維持管理業務を開始（4月）
	中期 (～11月)	<input type="checkbox"/> 市民考古学講座特別講演会の開催（8月頃） <input type="checkbox"/> 全国古墳サミットの開催（11月） <input type="checkbox"/> 御廟表塚古墳の整備に着手（11月頃） <input type="checkbox"/> 大仙公園内でのガス気球の設置（夏頃） 遺産影響評価（HIA）アンケートの実施（運行後、3か月ごとに実施）
	後期 (～3月)	<input type="checkbox"/> 市民考古学講座の開催（2～3月） <input type="checkbox"/> モニタリング成果のとりまとめ（2月） <input type="checkbox"/> 史跡百舌鳥古墳群保存活用計画の策定（3月）
	次年度以降	<input type="checkbox"/> 御廟表塚古墳の整備 <input type="checkbox"/> 史跡百舌鳥古墳群整備基本計画（第2期）の策定
進捗の状況	前期 (～7月)	□世界遺産構成資産のモニタリング、各古墳の維持管理業務を開始（4月）
	中期 (～11月)	<input type="checkbox"/> 御廟表塚古墳の整備に着手（10月） <input type="checkbox"/> 全国古墳サミットの開催（11月）

(様式4)

	後期 (~3月)	<input type="checkbox"/> 市民考古学講座をより魅力的な取組みとするために内容を充実させ「百舌鳥古墳群魅力発掘講演会」を開催(2月) <input type="checkbox"/> ユネスコに提出した「包括的保存管理計画」に基づき、世界遺産となった資産の保存状態等を定期的に確認するモニタリングの成果のとりまとめを実施(2月) <input type="checkbox"/> 文化財保護法に基づく古墳の適正な保存等の基本方針である「史跡百舌鳥古墳群保存活用計画」を策定(3月)		
2025 堺市基本計画	該当する 施策	1- (1) 世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の継承と魅力の創出		
	寄与する KPI	大仙公園エリアへの来訪者数 [現状値：29.4万人(2019年度)]		目標値(2025年度) 60.0万人
未来都市計画 堺市SDGs	最も貢献する SDGsのゴール	ゴール番号 11	住み続けられるまちづくりを	
	寄与する KPI	—		目標値(2023年度) —